

旬の渥美半島ですてきな出会い

たはら農業委員婚活実行委員会が企画した婚活イベントが、平成28年12月4日(日)、5日(月)に開催されました。このイベントは、農業後継者対策として行われたもので、2回目となった今回、市内の農家に生まれ育った女性後継者たちを対象に男性9名、女性7名が参加しました。

初日は、自己紹介の後、キャベツの収穫体験を行いました。参加者は農業委員の指導のもと、自ら新鮮なキャベツを収穫しました。その後マムポートに移動し、施設の見学を行いました。マムポートは、輪菊の選花選別と箱詰め作業を行っている施設です。参加者は、施設職員に「一日に何箱出荷しているのですか」などと、熱心に質問していました。また、フリータイムでは、会場である伊良湖ビューホテルのチャペルや庭園、屋上を



●キャベツの収穫体験

見学し、海拔100mの高台から見下ろす雄大な景観を堪能しました。

2日目は、講師のKENNYさんによる花結びパフォーマンスでの交流会が行われました。講師の指導で男性も積極的にブーケを作り、女性からのアドバイスを受けたり、プレゼントしたりと和やかな雰囲気の中で交流を深めることができました。

参加者から「キャベツの収穫は初めてで楽しい」「オーシャンビューのホテルで魅力ある自然を満喫できた」などの感想が寄せられました。

将来は、田原市で農業に携わりたいという男性が多く、渥美半島の良さを感じながら、将来へとつながるイベントとなりました。



●講師のKENNYさんによるブーケづくりの実演の様子

新規就農者を紹介します

赤羽根町にお住まいの中川貴文さん、倫子さん夫妻は、平成27年4月に就農後、「パッチファーム」を開業し、多品目の野菜を栽培しています。



中川さんご一家

貴文さんは、前職(サラリーマン)のときに、日々にする野菜が人間にとって生きる上でとても大切なものであり、農業が将来有望な仕事であると考えたことが就農のきっかけとなりました。その後、勤めていた会社を退職し、祖父の農地を譲り受け、農業を始めることとなりました。

貴文さんの農業に対するこだわりは、無農薬で化学肥料を使わず牛糞や米ぬかなどを使った栽培方法です。約7反の畑と約3反の田で、キャベツをはじめニンジン、葉にんにく、ズッキーニなど約10品目を栽培しており、市内外のスーパーやレストラン

ンに出荷し、個人向けにはインターネット通販を行っています。

中川さん夫妻の夢は、農業をしながらカフェや収穫体験などを開くこと。こうした取り組みで田原市の魅力を発信しながら、市内外から人呼び込み、地域に貢献したいとのことでした。

田原市の農業産出額が日本一!

農林水産省から「平成26年市町村別農業産出額(推計)」が昨年12月に公表されました。全国の市町村ごとの農業産出額を一定の条件の下で推計したもので、統一した基準で比較ができ、農業の毎年の動向を把握することも可能となります。

●市町村別農業産出額(単位:千万円)

H26 順位	H18 順位	市町村名	H26 産出額	H18 産出額
1	1	田原市	8,130	7,244
2	2	都城市	7,022	6,933
3	5	銚田市	6,891	5,393
4	3	新潟市	5,845	6,553
・	・			
10	6	豊橋市	4,124	4,738